

日向市立 大王谷学園中等部8年生 (4クラス、132人)

立志式「ドリームプラン・プレゼンテーション」(ドリプラよのなか教室)

平成29年2月11日

1. 趣旨とねらい

- (1) 自分の将来の夢を考え、言葉に表し、他人に伝えることで、プレゼンテーション力を磨く
- (2) グループワークや代表選びや全体発表の準備をすることで、人の夢を応援することになり他との関わりを通じて「相互支援」することの力と喜びを学ぶ

<ドリプラとは>

大人が本気で夢を語る、体験型のプレゼンテーション。社会に新たな価値観と感動を提供するビジネスプランを10分間で発表するもので、日向では既に3回実施され、今年度は平成29年3月12日に開催される予定。「学校ドリプラ」として高校生向けに東京都立高校で取組みが開始されており、中学生向けには全国でも初めての本格的な取組になる。

2. 実施内容

(1) 事前準備と導入

1月129日(火) 16:30~17:30 先生全員とドリプラ事務局との情報共有、意見交換

1月7日(水) 13:55~14:45 学活 「オリエンテーション」(生徒全員)

(2) 大人のドリプラを聞く(ドリーム講話)

- ・ドリプラのプレゼン 10分
- ・その背景や思いを語る 15分
- ・生徒たちによるグループワーク(感想や意見を交換) 15分
- ・生徒たちからの発表 10分

1月13日(火) 14:10~16:00(2時限) 総合 「ドリプラよのなか教室」(第一回)

1月20日(火) 14:10~16:00(2時限) 総合 「ドリプラよのなか教室」(第二回)

- ・各回、4人の講師が2回(2コマ)実施(生徒は、2回を通じ4人から聞く)
- ・講師 税田和久さん(株式会社グローバルクリーン 代表取締役社長)
- 押川敬視さん(めだかファミリーグループ 代表取締役社長)
- 下堂菌賢二さん(伝えるデザインスタジオ 代表)
- タニカワみおさん(スリーオースパイス Owner、似顔絵師)
- ・ドリプラ事務局 吉永昭治さん(株式会社 日豊 代表取締役)

1月27日(火) 13:30~14:30 先生全員とドリプラ事務局で情報共有・意見交換

(3) 夢・ドリームプランづくり(ドリームプランニング)

- ・各クラス毎に5グループ(6~7人)に分かれて、個人ごとにプランをつくる

1月10日(火) 15:10~16:00 総合 ドリプラづくり検討会(第一回)(ドリプラ事務局が指導)

1月17日(火) 15:10~16:00 総合 同 上 (第二回)(同 上)

1月12日(木) 15:10~16:00 検討会(先生方が指導)

1月24日(火) 15:10~16:00 同 上

(4) 発表(発表は一人5分とする)

1月31日(火) 14:10~16:00(2時限) 総合 「クラス代表を決める」

グループ毎に各人発表し代表を決め、その後クラス毎に発表しクラス代表を決める

2月7日(火) 15:10~16:00 リハーサル

2月10日(金) 14:10~15:00 「立志式」(参観日)でクラス代表(4人)が発表

- ・最後にドリプラ事務局(押川敬視さん)から保護者へのメッセージ

(夢がなくても大丈夫。これを機に日頃から将来のことについて親子の会話を)

*学年代表に選ばれた人は、3月12日(日)開催の「ドリプラひむか」にて特別発表する

『先生、ドリブラって何ですか?』という生徒の質問でスタートした本年度の立志式準備。「う～ん、簡単に言うと、自分の夢を自分の言葉で語るという感じかな。」

教師自身も「ドリームプランプレゼンテーション」の存在を初めて知った。これまでも立志式に携わってきたが、「弁論大会との違いは何だろう」と疑問に思うところからスタートした。中学校2年生（本校では8年生）の学校行事として開催される立志式であるが、その本質は次のようなことである。

中堅学年にあたる2年生が、日本で古くから行われていた「元服」にあたる儀式を行い、一人の人として『志』を立て、人生の指針と強い意志を表明し、前向きに自己の将来を設計しようとする力を培うために行われている学校式典。
(<http://miraired.xyz/>より)

本年度半ば、日向市キャリア教育支援センター長の水永さんから紹介していただいたのが『ドリブラ』だった。東京の高校では実施されたが、中学校では日本初である…とのことだった。内心、これまで行ったことのある弁論大会の指導に、外部の方が指導やアドバイスに入ってくれるものなのだろう…程度感覚だった。ドリブラ、ドリブラ…インターネット検索をかけてみると、“誰もがワクワクする感動と共感の体験型プレゼンテーション”と出てきた。また、3つのテーマとして【自立・創造】【相互支援】【感動・共感】と掲げられており、中でも“相互支援”というキーワードにひかれた。

この数年、多くの生徒に携わりながら感じていたこと。それは、楽しく面白く目新しいことは好きだが、仲間の気持ちや夢について本気で考え、仲間のためにサポートすることが弱いということ。同じ学級、同じ部活動、幼馴染み、近所…今の中学生は、仲間の悩みに本気で応えることのできる友人関係なのだろうか？悩みを回避するために、敢えておもしろおかしく話題をすり替えてしまっている現状はないだろうか。学校現場で「希薄な人間関係」と唱えられることがある。それを、何とか打破することができないだろうか、と考えていた時だった。

このドリブラでは、発表者に対して数名の支援者が存在する。「本気で夢を叶えようとしている発表者を、本気で支援する。」「本気だからこそ突き詰める。」「本気だからこそ、時間をかけてよりよいプレゼン作りの手伝いをする。」…何となく、今の教育現場に必要な要素があるような気がした。

ドリブラについて知るうちに、「株式会社グローバル・クリーン」の税田社長のプレゼンに出会った。

“障がい者や高齢者などが自立し、活躍できる場（笑顔でつながるお掃除学校）を全国に発信したい”と、税田社長が本気で語っている動画だった。何だか分からないけど、鳥肌が立った。自分の想いを言葉にすることで支援者が集まり、夢に一步近づくことができるのだと感じた。この「本気で念ずれば、絶対に花開く」感覚を、生徒にも味わわせたいという思いが大きくなった。

本校におけるキャリア教育は、研究の柱として「外部人材の有効活用の在り方について」実践的な研修を進めている。1年生から9年生までの系統性・一貫性・連続性のある連携の流れを意識し、各学年で活動している。その中でも、各学年で『核となる体験活動』を設定し、活動を通して目指す児童生徒の姿をイメージしながら、キャリア教育を推進している。また、各学年で4つの能力領域を検討し、発達段階に応じてバランスよく身に付けさせ、望ましい勤労観・職業観を育もうとしている。

第8学年における4つの能力領域			
人間関係形成・社会的能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
働く意義や役割について理解し、何のために学んでいるか深く考えることができる。	自分の長所や短所を認識し、より長所を伸ばそうと努力することができる。	自分の行動を振り返り、問題点を改善しながら自分にできることを行うことができる。	学習を通して、自分の生き方や将来（進路）について考えることができる。

12月8日：立志式オリエンテーション

オリエンテーションでは、学習の見通しや目的・意義についてプレゼンテーションで説明した。また、「ドリームプランプレゼンテーション」の実行委員に来ていただき、『本気で夢を語る』ことの素晴らしさについて説明していただいた。

《本年度の立志式の目的》

- 自己の在り方を振り返り、将来の進路について考えさせる。
- 最高学年に向けた自覚をもち、充実した学校生活を送ることができるよう意識を高めさせる。
- 夢実現のために自分の言葉で夢について語るができる生徒や、仲間の夢を応援しようとする気持ちを育てる。



12月13日、20日：ドリプラ実行委員による講話（4コマ）

【講師】

税田和久様（グローバルクリーン代表取締役社長）

押川敬視様（めだかファミリーグループ代表取締役社長）

下堂菌賢二様（伝えるデザインスタジオ 代表）

タニカワみお様（似顔絵師）

【内容】・講話【ドリプラの想い、背景】（25）

→グループディスカッション（15）→グループ発表（10）

生徒は、「ドリプラ講話」では、2回にわたって講師（実行委員）の話を計4コマ聞くことができた。講師は地元日向の方から県央、西臼杵など幅広い職種の方のお話を聞くことができた。4名とも講師は挫折や苦悩を経験し、考え方の転換や仲間からの支援や家族の存在などから一念発起した企業家ばかりであった。生徒にとっては「目の前の困難は、必ず自分のためになる」ことを肌で感じたようだった。

講話後の班別協議の時間には、「どうすれば困難に打ち勝つことができるか」、「人生を変えた一言を教えてほしい」など、自分の生き方や考え方などについて真剣に質問を考える様子であった。回を重ねる毎に生徒の話聞く姿勢が積極的になり、自ら質問したり講師から学ぼうとする姿が見られるようになった。



12月27日：ドリプラ実行委員と職員の打合せ

学校教育の中で、キャリア教育授業に向けて作るプログラムが「学校ドリプラ」であることを確認した。

今回の活動では、進学や就職を夢にするのではなく、自由に自分の夢を描くことにより、視野と可能性を広げていく。また、生徒が自分の言葉で夢について仲間に語り、それを応援することが大きな成果のイメージであることを確認した。

少ない時数（6回8時間）の中で計画しなければならず、1時間内での進捗や、それ以外にかかってしまう時間について、実行委員の方々に現状を理解していただいた。

1月10日、12日、17・24：発表準備（コラージュ作成）

実行委員のアドバイスを受けながら、生徒が自分の夢について掘り下げて考える。

“コラージュ”とは、美術の表現方法の一つであるが、自分の好きなものや興味のあるものを雑誌などから切り抜き、台紙に貼って一つの作品にするものである。

今回の活動では“夢のコラージュ”として、生徒自身の夢や希望、欲しいものなどを象徴化した写真やイラストを貼り混ぜたものやイラストなどを書き入れる活動を通して、目標や目的、その理由が明確になっていくことをねらいとした。生徒はコラージュを作成しながら、夢実現のための理由やその思いの強さ、信念を掘り下げて考えた。



《夢は警察官》正しい社会をつくるために、市民を守れる人間になりたい。

1月31日：学級代表決定

各学級で一人ずつ発表し、学級代表を決定した。この日は保護者にもオープン参観を呼びかけていたため、各学級、積極的な参観もあった。放課後には各学級で支援に入っていたいただいた実行委員の方々と協議し、学級代表を決定した。生徒全員の思いや考えに感銘を受け、選考には大変時間を要した。



《実行委員との代表選考の様子》

2月：ブラッシュアップ

各学級代表の発表を、応援する仲間として練り上げる時間を設けた。言葉の表現や読み方、説明の長さなど各班で相談しながら、代表者の発表がよりよいものになるようにアイデアを出し合った。
また、実行委員からの支援の日を2回設け、学級で練り上げたものをさらにまとめ直した。スタート時に比べると、学級代表生徒の考えも深まり、プレゼンテーションとして質の高いものになってきた。

2月10日：立志式

「立志」の意味や、今後の望ましい生き方や考え方について確認した上で行事に臨ませるようにした。会場設営や司会進行など、自分たちの力で行事を創り上げていく意識をもたせるように工夫し

【立志式当日の様子】



生徒全員による群読



代表生徒による発表

式次第	
一 立志の誓い	群読「これから」 川崎 洋作
二 校長先生のお話	
三 発表	
学級代表生徒によるスピーチ（17分）	
一組代表	木田 紗希さん
二組代表	甲斐 雅哉 さん
三組代表	荒田 梨乃さん
四組代表	推菜 美奈さん
四 保護者代表あいさつ	
学生委員長	坂本 希 様
五 記念品授与	
学生委員	四位 博子 様
六 立志式講話	
「なぜ夢を本気で語ると実現するのか」	
ゆだかファミリーグループ	
代表取締役	押川 敬規 様



成果と課題

(ア) 生徒の感想より

- 何となくだが、就きたい職業が見えてきた。
- どのようなことをすれば実現に近づくか分かって良かった。
- 調べたいことについて、もっと時間をかけたかった。

(イ) 成果と課題

- 立志式（ドリプラ等）の活動を通して、教師や保護者以外の大人から夢や現実的な話を聞き、幅広い考えをもつきっかけとなった。
- 立志式を通して、生徒自身が自分の夢についてじっくりと考え、それを他者に伝えることで仲間との夢の共有につながった。また、仲間の夢を応援する気持ちが高まった生徒が多く見られた。
- 立志式では、外部と連携する時間の確保が、学校で計画した時数ではどうしても足りず、時間外や授業を変更して対応した。学校としてできること、できないことについては確実に伝え、学習や行事の趣旨から外れないよう、折り合いをつけながら計画していく必要がある。
- コラージュづくりにおける美術科や技術科との横断的なつながりがもてるとよかった。

職員反省より

1. 内容について

- ・特に学級での発表と一言コメントはよかったと思います。お互いのよさを認め合う時間でした。
- ・夢を考えて他人に伝えるという流れはよいと思います。
- ・ドリプラ自体はとてもおもしろく、特に、大人の人のドリプラを聞くのは、ものすごく勉強になった。子どもたちもじっくりと自分を振り返る時間が持てて良かったと思う。

2. 活動計画について（オリエンテーション・実行委員によるプレゼン×4・コラージュづくり・文章づくり）

- ・講師4名の方のプレゼンは、全体ではなくクラスで行ったので、より身近に想いが伝わったように思います。
- ・実際、作文やコラージュ作成に入った頃から、完成のイメージを持てるようになり、その頃から「楽しい」と感じてきた生徒が増えたような気がする。
- ・実行委員の方々のアドバイスがあり、それぞれ生徒のイメージも膨らんだのではないかと思います。

△取り組みの開始を10月ぐらいからできると良かった。

△オリエンテーションでは、ゴールイメージをもてなかったようだった。

3. 今後の授業や学校生活の指導の中で、今回の活動をどのようにつなげていきますか？

- ・夢を実現するために、今、学校・家庭で何をすべき、しなければならないのかを考えて、実行していくように子供たちに話し込む。
- ・授業を受ける態度や真剣さにつながっていくとよい。はじめをつけさせていく。子どもたち自身もですが、教師側も真剣に一所懸命、関わらなければ！ですね。
- ・夢を語ると行動に移しやすくなるということを、高校合格と勉強につなげたい。

【全体を通して】

- ・時期については準備や学習内容を考慮すると、3学期の実施がよい。しかし、インフルエンザ等が流行る時期でもあるため、急遽、中止になる可能性も高い。
- ・生徒、教師ともに活動が進むに従って、少しずつ目的意識と意欲が高まった。知らないこと、新しいことについて拒否反応を示す特徴があるため、視覚的に分かりやすい提示（コラージュなど）ができると良かった。
- ・活動の様子については、各学級で通信に取り上げてもらったため、保護者からは好評であった。...と思う。
- ・取り組みや作文、コラージュ作成の能力差はあったが、学級によっては見えないところで細かく指導しており、その思いも生徒に伝わっているようだった。

●「式」としての意識の高め方が薄かった。集会などを頻繁に入れていけるとよかった。

●職場体験学習と並行して準備を行えば、2学期初めぐらいから早めに活動できたと思う。また、核となる体験活動が8学年は「職場体験」と「立志式」であるため、並行して活動させることはこの2つの活動につながりをもたせることにもなると考えられる。

△学校でできることは限りがある。その中でどれだけ知ろうと努力し、調べ、自分なりの指導（学習）に持っていくかが「教える（学ぶ）」ということなのではないだろうか。

△「教師自らが外部とのやりとりをする」ことが、キャリア教育支援センターの考えだというが、できることとできないことの区別をしっかりと伝えていく必要性を感じる。